

令和7年度第3回 静岡県立伊豆の国特別支援学校
伊豆下田分校学校運営協議会 議事録

1 日時 令和8年2月4日(水) 午前9時30分から11時30分まで

2 場所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校 図書休養室

3 参加者

学校運営協議会委員

氏名	所属等
徳島 一信	株式会社開国 取締役
村木 康隆	社会福祉法人伊豆つくし会ワークあおぞら事業所長

学校教職員

職名	氏名	所属等
校長	松本 仁美	
副校長	廣瀬かよ子	
部主事	鈴木 雅枝	小学部
部主事	千葉 俊和	中学部
教諭	岩城 美絵	教務課長 小学部

4 内容

- (1) 学校見学・授業参観
- (2) 校長挨拶
- (3) 令和7年度学校評価について
- (4) 協議テーマ『地域で生きる～卒業後や成人期に地域で幸せに生きるために～』
- (5) 令和8年度学校経営計画について
- (6) コンプライアンス委員会

5 議事録

○校長挨拶

校長： 各校地域と一体になった取り組みを進めている。今の取り組みに満足せず、特に分校は広く情報を集めて、よりよい取り組みや今の時代にあった取り組みを進める必要がある。小規模・少人数だからこそできる地域との特色ある関わりがある。是非意見を出し合っていきたい。

○令和7年度学校評価について

○協議テーマ『地域とともに歩む学校づくり～地域の資源や人材を活用した学習活動～』

○令和8年度学校経営計画について

副校長： 学校自己評価・保護者評価・令和8年度の経営方針案について説明

委員： 連携 キャリア教育・地域との協働について

自分の事業所等を見学し、卒業生の姿を見て、自分たちの進路や生き方について学習する機会にしてほしい。

地域の公共交通機関が限られさらに減少している。大人になると車送迎だけの生活になり、高等部まではバス・電車通学をしていた利用者が、バスや電車が使えなくなってしまうこともある。地域で生きていくために利用機会の提供は必要と考え、事業所でもあえて電車を使って三島方面へ行く活動を計画している。

校長：公共交通の利用方法も変わっている。現金支払いや切符購入ではなくなっている。どの時期にどこまでどのように教えていくか、学校でも考えなくてはいけない。

校長：保護者評価の意見については、一人の意見であっても、対策等を示し、学校としての回答案を考え、委員から意見をいただくことが必要である。

来年度の学校経営計画案は大きな枠組みの文言になっている。「どこを見学するか。」「どのような機関とつながるか。」等は、学部経営計画や分掌経営計画に具体的に記載が必要である。

委員：連携 地域との協働について

地域とつながるだけでなく、地域を学習の場として活用することも検討してはどうか。自分の店を学習の場として活用し、校外に出たときトイレを借りる場合のコミュニケーションの学習に使ってはどうか。さらに借用を断られたらどうするかなど、ハプニングや想定外に弱い分校の児童生徒には、学校職員以外の人との関わりや学習の場が必要である。練習して想定内の学習だけでなく、想定外のことへの対応力が、犯罪に巻き込まれない、自分の身を守る力にも通じる。

校長：児童生徒だけでなく、教職員も想定外の対応は苦手である。臨機応変力は児童生徒だけの課題ではない。

児童生徒の学習も、校外学習等で想定した行程を校内で練習したり、疑似体験を行ったりするだけの、一昔前の学習スタイルから変わっていかなくてはいけない。

校外学習の目的は当然大事だが、予定通りできてよかったではない。こどもはそれ以外の教師が予想しない学びもたくさん得ている。また想定外の出来事に出会って、そこでの学びや経験が、生活に繋がる力として大きい。

委員：事業所内だけの活動にならないように、地域へ出で行くことやイベントへの参加を大切にしている。ハプニングは起きるが、職員には「事故やケガはあってはならないが、慌てないで落ち着くように。」と伝えている。

地域に出て行って、利用者が迷惑をかけてしまうかもしれないから出て行くのをやめるといった考え方だけはしないようにとも伝えている。ハプニングは、どうすれば良かったのか、次はどうすれば良いかを考える機会に、意見はクレームではなく地域の方の助言と捉え、学びとできるようにしている。

副校長：協議テーマ『地域とともに歩む学校づくり～地域の資源や人材を活用した学習活動～』 学校が地域と連携してできることは何かについて説明

校長：賀茂地区にとどまらず、もっと三島・沼津、県下、県外と保護者も子供と一緒に、行ってみたり関係者に来てもらったりということが必要。本校も市町の障害福祉課や日本年金機構の方がきたり、PTAの座談会で情報を交換したりしている。

昔は保護者が、卒業後に行くところがないなら自分たちで事業所を立ち上げた。そういう方を呼んできて話を聞くこともよい。

学校は、ただ情報を提供するのではなく、保護者が自分たちのことを自分たちで考えていくための、繋がり作りや仕掛けをしていくことが必要。

委員： 保護者が依存的すぎると感じる。自分のことなので、保護者自身が何とかしようと、主体的に考えて行けるようにしていくことが必要。

どこに就職する、どこへ行くのではなく、お金の稼ぎ方や貯え方は、今いろいろな方法がある。直接雇用ではないけど、その方の芸術性などの能力をサポートしようとする人達もいる。(イベントでテナント出店して利益を得る事例、児童生徒の絵などに価値がつく事例の紹介。)

情報の中には、そのような発想や広い視点を紹介していくことも必要である。

委員： うちの生活介護事業所では働くことを求めすぎない。趣味や好きなこと得意なことを活かしてお金にできたらよいというスタンスで、考えている人もいる。自宅でできる趣味が仕事になることもある。今の時代は、卒業後に必ずどこかに行くという考え方はそぐわないのかもしれない。

校長： 保護者が、子どもの個性を伸ばして、絵の作品展をしたり商品化したりした卒業生もいた。本人の気持ちと保護者自身が考えることが必要だが、情報提供がないと考えることもできない。保護者が主体的に考えられるようにするために、学校は広い視野で、どのような情報や機会を提供することが有効であるかを考えることが必要である。

○コンプライアンス委員会

副校長： 今年度の取り組みと状況を説明

校長： チェックシートも提示して、その内容等にも意見をもらう必要がある。

チェックシートは毎回同じ内容ではなく、チェック項目や取り方を変えて行くことが必要。結果を踏まえて内容をバージョンアップし、結果をどのように考えていくかが必要である。

委員： 経営者として、若い人には、ハラスメントになってしまうので、言ってもらえずかわいそうだなとは思いがあまり言わない。

委員： 言わなくてはいけないことは気になった時点で言うが、個々ではなく、全体の場で事例として言う。管理者として改善のない場合は遠慮なく対応すると伝える。特に虐待や人権にかかわることは犯罪なので、組織としても個人としても大変なことになるという伝え方をする。気付ける人は、それで自分から言うてくるし、職員全員が意識する機会にもなる。

セクハラやわいせつは、個々の癖もあり、また勤務時間だけではないプライベートでのこともあるので、対応が難しい。ただ、あなたもあなたの家族にとっても大変なことになると、指摘していくことは大事である。

校長： 学校現場では、校内のカメラの設置が話題に上がる。反発や不信感が大きいかと予想したが、カメラを設置することで、「守ってもらえる」という好意的意見も多い。

委員： 店にはカメラを設置している。ちゃんとやっている人にとっては「気にならない、身を守

る証拠にもなる。」と反対より評価されている。設置費用は8000円のものだが、管理者はクリアな画像でスマホからすべて確認ができる。

校長： 学校現場でのカメラ設置など、そのような時代になってしまったのかという思いもあるが、全教職員でコンプライアンスを意識し、お互いに確認し合っていこうという姿勢を大事にしていく。